

## 令和2年度 学校評価のまとめ

### 1 今年度実施した学校評価

- (1) 教職員・生徒・保護者による評価  
12月および1月実施、有効回答数（教職員42名、生徒144名、保護者47名）
- (2) 教職員による自己評価  
2月実施、有効回答数（教職員36名）
- (3) 学校関係者評価  
2月実施、有効回答数（学校評議員5名）

### 2 各評価の分析と今後の課題

#### (1) 教職員・生徒・保護者による評価

評価全体として生徒・保護者の満足度は高く、ほぼ全ての項目で肯定的回答が60%以上であった。ただ、項目8は60%を少し割っているが、これはコロナ禍の影響で1学期に公開授業を実施できなかったためであると考えられる。従って、本校の教育活動の成果はこれまで通り良好であると考えている。

教職員と保護者の評価で肯定的回答が90%以上あった項目は「学校は、文化祭で専門科の実習内容や文化部の発表の場を設けている」と「学校は、生徒を資格検定試験に参加させ、学習意欲の喚起を図っている」であった。文化祭は教育活動の成果を発表し広報する場として重要であり、保護者も文化祭を重視していることが分かった。また、資格試験に対する期待が高く、資格を取得させることに関心が大きいことも分かった。

教職員と保護者の評価が70%以上と高かったものの、その差が30%と大きかった項目は「学校は、毎学期「生活アンケート（いじめ行為含む）」を実施し、いじめの未然防止、早期発見に努めている」「学校は、生徒の身近な問題から環境への関心を高め、より良い環境を創造するための実践力を育てている」であった。それぞれの取り組みが保護者に伝わっていないことが原因であると推測する。しかし、「学校は、各学期に個人面談を実施すると共に、家庭とも密接な連絡をとっている」で肯定的回答が74%とやや高めの評価であり、一部の保護者に教育活動がしっかりと伝わっていないことが考えられ、さらに多くの保護者への広報活動について検討課題が見えてきた。

#### (2) 教職員による自己評価

前年度と比較すると11項目で評価が下がっている。これは、今年度コロナの影響で4月に緊急事態宣言が発出され約2ヶ月休校となったことや、コロナウイルス感染拡大防止のため多くの行事を中止したことが考えられる。特にボランティア活動や文化祭は、生徒が成長する絶好の機会であり近年評価が着実に上昇している項目であったが、活動が中止になった影響は大きかった。新たに新設された「情報教育の推進」「感染症対策の向上」は、コロナ禍で必要な内容であり高い評価となった。特に「情報教育の推進」では、計画されていたギガスクール構想と相まって急速に進展した。

#### (3) 学校関係者評価

学校運営全般に肯定的評価を受けている。特に進路指導では、コロナ禍の中生徒の実態に応じて指導してきた成果発揮でき、希望進路先に導くことができた。また、学力向上の取り組みにも高い評価を受け、引き続き授業改善の取り組みに力を注ぎたい。生徒指導では、丁寧な指導が評価されつつも、保護者・生徒へより深く理解されるような説明方法が課題となった。PTCA活動はコロナ禍の影響で活動ができなかったことが残念である。次年度はそれぞれの課題を少しでも克服できるよう教職員一同取り組んでいかなければならない。